

平成 22 年 3 月 15 日

「日本再生会」の皆様へ

大久保啓次郎

“中国が目覚める時、世界は震撼する！”

～趙紫陽の極秘回想録（天安門事件の舞台裏）を読んで～

1972 年 9 月 29 日に日中国交が回復し、その翌年の春に、塩化ビニールの商談で中国の北京（私の初めての外国旅行）へ、羽田から直行便で行った事もあり、その時以来、中国の政治体制&経済体制の変遷を、大変興味深く見ており、中国現代史や中国の政治家の人物伝も、強い関心を持って読んでおります。

当時の北京市内には、私が宿泊した北京飯店以外には、確か、民族飯店と、友誼飯店の、三つしかホテルがなく、高い建物は殆どありませんでした。

羽田から北京まで 3 時間程の直行便で、あっという間の、物足りない空の旅でした。午後 6 時頃北京空港に着いたのですが、ガランとした殺風景な空港で、恐らく一般公開は、されておらず、したがってタクシーもおりませんでした。

我々は、[パスポートを召し上げられ、迎えの車に乗せられて、そのまま北京飯店まで連行されました。] しかし晚餐は、豪華な中華料理で接待されました。その夜、高層ビルの窓から見た天安門広場の夜景が印象的で、忘れられません。

1949 年に、毛沢東独裁の中華人民共和国が誕生し、1966 年～1976 年には、あの悪名高い毛沢東主導の「文化大革命」があり、'76 年に毛沢東が亡くなると、これまでの毛沢東の誤った指導に対する反省から、党及び国家の中枢部の中から、毛沢東指導方針の軌道修正の声が上がる。

'76 年～80 年は、毛沢東に指名された華国鋒が最高指導者になるが、ポスト毛沢東時代に見合った政策を打ち出す事に失敗し、鄧小平により失脚させられる。そして '81 年に、文化大革命で失脚していた鄧小平が、最高指導者として再登場してくる。1981 年～1997 年の最高指導者になり、経済自由化を支持、改革開放政策の成功で大いなる名声を獲得して、権力基盤を固める。

側近には、胡耀邦（1980 年～1987 年総書記）、趙紫陽（1980 年～1987 年首相・87 年～89 年総書記）という、二人の優秀な改革開放・市場経済主義者を登用する。

こう見て来ると、中国は、鄧小平の後継者となるべき胡耀邦や、趙紫陽を抜擢し、21 世紀には、万全の政治&経済体制を確立し、世界でもトップクラスの国になるであろうと、だれもが予想したと思われる。

ところが、ご承知のように、1987 年に胡耀邦が失脚し、1989 年には天安門事件を巡って趙紫陽が失脚する。

そして最高権力者は現在、**鄧小平→江沢民→胡錦濤**と、引き継がれている。

現在の政治体制は変らないが、経済体制は、現在も市場主義経済体制を継続しており、今年の中国の GDP は、日本を追い越し、世界第 2 位になるであろう。

このままいけば、OECD の予測によれば、2020 年には、中国の GDP は、アメリカを追い抜いて世界一になるであろうと、予想される。

興味深いのは、政治体制である。現在の胡錦濤政権も、鄧小平の教えを守って、共産党の一党独裁体制を堅持している。憲法はあるが、必ずしも「法治」遵守ではない。党と国家の権限を分離する気はない。ましてや、西洋型の民主主義や三権分立などは、否定し続けている。

★ 問題は国民である。2020 年～2030 年には、20 億人～30 億人になると、言われている国民人口である。インターネットで世界の情報量も急激に増加している。

将来もこのまま、おとなしく、国民が黙っているとは考えられない。

胡耀邦や趙紫陽の改革派を、失脚させた保守派の長老達も、90 歳前後になり、**陳雲**（1905～95）、**姚依林**（1917～94）、**楊尚昆**（1907～98）、**李先念**（1909～92）、等々は、既に亡くなっている。

今でも存命なのは、**鄧力群**（1915 年生まれ）＝今年 95 歳と、**李鵬**（1928 年生まれ）＝今年 82 歳の、二人くらいである。

但し、**李鵬**は、**鄧小平**を扇動して、学生運動を天安門事件にまで発展させ、**趙紫陽**を失脚に追い込んだ張本人である。今後も要注意人物であろう。

★私が訪問した頃（1973 年）の中国の経済状況は、極めて劣悪であり、毛沢東主導の人民公社による農業生産が中心であった。「自力更生経済」が原則で自給自足であり、外国との貿易（輸出入）は、必要最小限度に抑えられていた。しかし、世界各国から見た「中国」は不気味な存在だった。‘74 年に「**中国が目覚める時、世界は震撼する**」が、出版された。私の本棚にあるが未読である。

◎ 果たして**中国**は、近い将来、政治体制も変えて、「**世界を震撼させる国**」に、脱皮出来るであろうか？